中学・高校音楽通信　2018年　春号

Spire_M

中学・高校版

P.2 うたの潮流 第4回 山田耕筰-②
唱歌・童謡研究家　竹村 忠孝

P.10 With My Heart
稽古場を訪ねて
林 英哲　英哲風雲の会

P.12 MUSIC JAM 通信 1 music jam SENIOR 4

教育出版

うたの潮流

作家の足跡とともに辿る日本のうた

第４回　山田耕筰-②［1886-1965］

山田耕筰は，米国カーネギー・ホールに於いて東洋人初の演奏会を大成功させ帰国した。すぐに帰朝会を祝ったのは，雑誌「赤い鳥」の童謡欄を担当していた北原白秋らであった。日本語のリズムを大切にした詩を作る白秋，そして，日本語のアクセントを大切にした曲作りをする耕筰が，日本の歌へ対する基調が合致し，月刊芸術雑誌「詩と音楽」を創刊させた。

そして，「からたちの花」「ペチカ」などの芸術性の高い童謡が生まれていき，白秋と耕筰は，信頼し合う詩人と作曲家として，「この道」なども残していった。

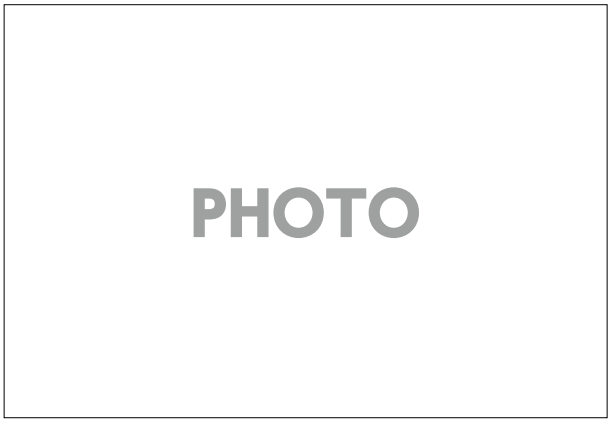
日本大学・法政大学講師
唱歌・童謡研究家　**竹村 忠孝**

index

１．米国から帰朝の耕筰と雑誌「赤い鳥」
２．北原白秋と山田耕筰の月刊芸術誌「詩と音楽」創刊
３．信頼し合う「北原白秋と耕筰」の曲作り
４．耕筰と「ペチカ」北原白秋

１．米国から帰朝の耕筰と雑誌「赤い鳥」

大正６年（1917）に山田耕筰は渡米し，大正７年10月のカーネギーホールで自作の曲の東洋人初の演奏会を開き大成功させ大正８年５月に帰国した。築地精養軒で三木露風，北原白秋，深尾須磨子※1，萩野綾子※2の帰朝歓迎を受けた。



日本初の西洋料理店「築地精養軒」での耕筰帰朝歓迎会
左から：深尾須磨子，耕筰，萩野綾子，白秋，露風
竹村忠孝 蔵

白秋は日本の音楽について，「音楽評論家たちは，原詩のもつ言葉の音楽（リズム）に対してあまりにも無関心である。」と言っている。つまり，日本語そのものにリズムがあり，そのリズムを理解されていないことを耕筰に話している。耕筰は，「日本語の語感（アクセント）を大切にした曲をつくりたい。」と白秋にこたえている。そこで，日本語を大切にしたいと思っていた白秋と日本語のアクセントを大切にした耕筰は意気投合した。そして，童謡を通して日本人としての音楽を作っていこうという気持ちになったのが，帰朝歓迎会であった。

それから，翌６月22日に赤い鳥社主催の帰朝歓迎音楽会が帝劇で開催された。耕筰は舞踏詩「青い焔」「嘆」などの演奏の指揮をした。雑誌「赤い鳥」（主宰鈴木三重吉）は白秋の協力を得て，約一年前の大正７年（1918）に７月号が創刊されていた。

三重吉は子どもの美しい空想や感情を育てる詩と歌を創作する一大運動を宣言し，「世間の小さな人たちのために，芸術として真価ある純麗な童話と童謡を創作する最初の運動を起こしたいと思ひまし

※１深尾須磨子…詩人，小説家，翻訳家，児童文学作家。与謝野晶子に師事。

※２萩野綾子…声楽家。耕筰や白秋の作品を多く録音している。

PHOTO

雑誌「赤い鳥」創刊号
写真提供：広島市立中央図書館

て，月刊雑誌「赤い鳥」を主宰発行することに致しました。」と述べている。この帰朝音楽会で三重吉は，「雑誌『赤い鳥』に掲載された童謡詩に曲をつくることに協力をしてほしい。」と耕筰に告げている。耕筰は，童謡欄の担当が白秋と知ると，「勿論，白秋さんとなら尚更，結構である。」とこたえている。

耕筰は，雑誌「赤い鳥」創刊の約２年前の童謡が無かった大正５年に，「新子守謡」（作詞・清水都代三）の詩に曲をつけている。この「新子守謡」のことを伝えると白秋は，

「児童本来の稟質は詩そのものだ。神秘の蔵だ。子守唄の温かさだ。揺籠のリズムだ。」と言って，耕筰が雑誌「赤い鳥」の作曲担当になってもらえることを大変に喜んだという。

新子守謡　清水都代三

とんとん　とろりこ　とんとろり
とろとん　とろりと　鳴る音が
坊やのお寝間にや　まだ来ぬか
来なけりや　迎ひにまゐりましよ
海山越えて鬼ヶ島
鬼のゐぬ国　ねんね島

PHOTO

白秋の家（みみづくの家）にて
鈴木三重吉（左）と白秋夫妻
竹村忠孝 蔵

2. 北原白秋と山田耕筰の月刊芸術誌「詩と音楽」創刊

大正デモクラシーにより民衆による文芸は花開き，日本の民主化と共に経済格差が広がっていった。童謡は中央の子どもから地方の子どもたちまでの情操教育として，短い詩と音楽で豊かな情感を生みだす目的で作られていった。とりわけ，詩人北原白秋と作曲家山田耕筰は日本語（言葉）と日本語のアクセント（メロディ）を語感一致（つまり一音符一語主義）を前提として歌を生み出していった。その原点となる「日本語による日本の歌を」「真純なる芸術を樹つる事」そのような思いが込められた雑誌が白秋と耕筰による月刊芸術誌「詩と音楽」である。

月刊芸術誌「詩と音楽」は大正 11 年（1922）９月に創刊したが，白秋は，その思いを手記に書いている。

PHOTO

月刊芸術誌「詩と音楽」
資料提供：国立国会図書館

七月初旬，アルスの弟が社の牧野，本沢両君同道で大元気で私の木兎の家に来た。さうして「詩と音楽」といふ雑誌を出したい，山田耕筰氏と二人で主幹になってくれとの事であった。山田氏とならう一つ大いにやって見よう。かうした機運は既に動いてゐるのだ，よからうと答へたので，大喜びでその晩は泊って翌朝帰るとすぐ指定された原稿を方々へ願ってゐるといふ手紙が来た。実に迅速で驚いた。

小田原　白秋　大正十二年八月

白秋と耕筰は，叙情的な日本人に合った美しい日本の歌を童謡という形で作っていこうと心に決めた瞬間であった。

白秋は，耕筰についてこう語っている。

耕筰，この人は明朗で，酒にも強く，健康で，才気縦横，而も円転滑脱である。偉丈夫で，而もまた俊敏軽快であり，座談にまた長じてゐる。私なども明朗闊達のつもりでゐるが何としても晴天の憂鬱相を自身に感じ，鈍重寡黙であるが，この人の前に出ると何となく愈々に対蹠的となる。これはどうにもならないものだ。ただ痛飲淋漓となると，これが逆になることもある。要するに音楽と詩との差があり，その住する世界に於てしかく習性づけられてゐるかもしれない。この二人が些かの争闘もせず，提琴と弓のごとく，太鼓と撥のごとく厚情常に渝るところなきは天の配剤よろしきを得てゐると思はれる。

白秋と耕筰は，雑誌「赤い鳥」（芸術として真価ある純麗な童話と童謡を創作する）そして，月刊芸術誌「詩と音楽」（日本語の言葉のリズムと日本語のアクセントを一致させた日本人ならではの音）を目指して完成した童謡が「からたちの花」である。童謡と呼ばず，日本最初の歌曲として，現在でも多くの声楽家に歌われている。

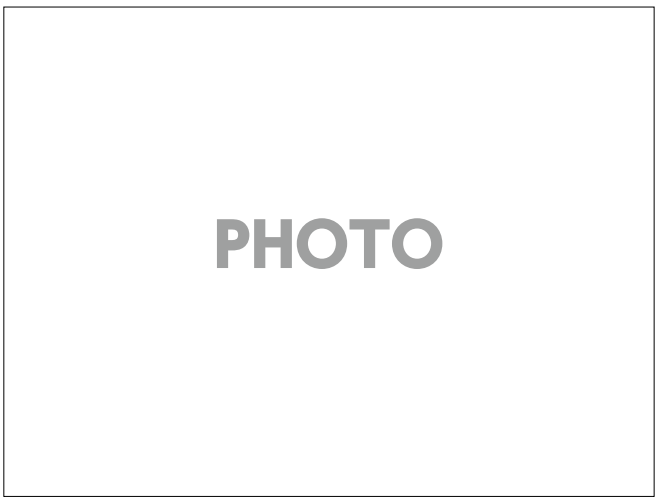
「からたちの花」について，白秋は，詩文集「緑の触覚」でこう言っている。

私には私としての幼時の追憶や，小田原水之尾で見た必然的なからたちの花の縁由がある。「からたちの花」は大正十三年五月十三日の作である。妻は手記「大変静かなよい詩で珍しい行き方，矢張りその花に即しゐるからであらう。」と書いてゐる。形式の新味は短歌長歌或は詩の五七の基調を主として取つたからである（各二行目で三三三四として一音多いが）童謡で五七調を試みて，今までにない幽韻を出さうとしたのは私がはじめてゞある。

と新しい詩調だと言っている。

創作された場所は，小田原の水之尾（みずのお）への道で，大正 13 年 5 月 13 日，白秋と妻菊子，2 歳になっていた長男隆太郎はいつものようにこの道（現在，白秋の散歩道として小田原市で整備されている）へ散歩に出掛けた。

「隆太郎，隆太郎，ほら，からたちの花が咲いたよ。白い白い花が咲いたよ。からたちの棘は痛いんだよ。青い青い針のような棘だよ。（中略）からたちも秋になると生るんだよ。丸い丸い金の玉のような実なんだよ。」このように話し言葉でつくられている。



小田原の水之尾への道
竹村忠孝 撮影

からたちの花

北原白秋

からたちの花が咲いたよ。
白い白い花が咲いたよ。
からたちのとげはいたいよ。
青い青い針のとげだよ。
からたちは畑の垣根よ。
いつもいつもとほる道だよ。
からたちも秋はみのるよ。
まろいまろい金のたまだよ。
からたちのそばで泣いたよ。
みんなみんなやさしかつたよ。
からたちの花が咲いたよ。
白い白い花が咲いたよ。

耕筰にも少年時代のからたちの花の思いがあり，それも重なり，耕筰は作曲にとりかかった。元来の日本語のアクセントは長唄や口上でのリズムであり，イタリーのオペラでは無いと耕筰は常々思っていた。そこへ，耕筰が目を通して感銘を受けたのが，「からたちの花」の詩であった。

日本語のアクセント，感情ポーズ（間），句読点を特に考え，アウフタクト（Auftakt・ドイツ語）の手法で曲を作りはじめた。特に，拍の頭の「か」や「さ」は低く，「よ」は高い。

この詩の素晴らしいところは，からたちのそばで泣いたよ，という場面。泣くということは通常の詩では悲しくて泣くと書くが，白秋は，みんなみんなやさしかった，みんながやさしくて泣いたところにこの素晴らしさがある。そこを耕筰は，特にやさしさを表す***ppp***（ピアニッシッシモ）を使っている。

3. 信頼し合う「北原白秋と耕筰」の曲作り

耕筰は，白秋が亡くなった（昭和 17 年 11 月 2 日逝去）後の追悼文で白秋の詩を絶賛している。

歌曲の創作に於ては詩人は夫であり作曲者は妻と呼ばるべきであらう。その夫にさき立たれた，妻たる私の悲みは深い。私は白秋との生活に於て実に數多くの歌曲を生んだ。が，今やその白秋は幽界十年の歸らぬ旅にあるのだ。白秋は時に暴君であつた。然し，それが私にとっては無常の喜びでもあり，快い刺激ともなつたのだ。人は白秋を言葉の魔王と言ふ。が，私は，白秋はまたリヅムの魔法使でもあると言おう。白秋の詩は言葉の世界から仙遊して天中に通達するのだ。文字の領域から飛翔して音樂と化してしまふのだ。白秋の詩はまた可視的な音樂だ。それは文字によって編まれた交響詩であり，狂詩曲でもある。 時にショパンの麗緻と纖細さで語るかと思へば，ベートゥヴェンの雄渾さをもって人に迫るのである。

この追悼文から遡ること 24 年前の大正 10 年に浅間山麓の旅で，白秋は詩「落葉松（からまつ）」をつくっているが，この詩に曲をつけるには耕筰に見ていただかないと承諾できない，ということを大正 11 年 8 月の手記で語っている。それは，月刊芸術誌「詩と音楽」創刊の一ヶ月前である。

落葉松

北原白秋

一

からまつの林を過ぎて、
からまつをしみじみと見き。
からまつはさびしかりけり。
たびゆくはさびしかりけり。

二

からまつの林を出でて、
からまつの林に入りぬ。
からまつの林に入りて、
また細く道はつづけり。

……

八

世の中よ、あはれなりけり。
常なれどうれしかりけり。
山川に山がはの音、
からまつにからまつのかぜ。

≪ある作曲家へ≫

「落葉松」は象徴風の実に幽かな自然と自分との心状を歌ったつもりです。これはこのままの香を香とし，響を響とし，気品を気品として心から心へ伝ふべきものです。何故なら，それはからまつの細かな葉をわたる冷々とした風のそよぎ，さながらその自分の心の細かなそよぎでありますから。で，これを歌声にして歌へばもうその香ひも響も消えて了ふのです。（中略）貴方はこの第三番をどうした間違いか民謡風に作曲してゐられます。本質上決して民謡風に取り扱われるものではないのです。あまりに違ひます。民謡になつたらもうこの詩はおしまひです。情なくて泣けさうです。（中略）兎に角，貴方が私の詩を愛好して下さること，作曲して下さる熱意この並々ならぬ機縁については十分に私も欣びとします。然し，貴方の詩に対する見解が根本に於て非常の誤謬があると云う事を悲みます。で，声楽の為の作曲は純情の沙小曲とか，民謡とか童謡とか，新様の唱歌とか，さうしたものを選ばれるが本当です。従って，作曲なさる前に今一度，詩といふものに就て，深く御研究なすって一先づ十分の理解を得られる事を切に希望します。兎に角，貴方に技術だけでなく，芸術に対する知識をもっと深くもっと広く修めて，（中略）もう一つ申しますと伴奏の無いのは困ります。それに小曲でも単純化だけでは困ります。複雑な単純化，つまり充ちてゐる単純が大切です。アクセントにも日本の固有性に重きを置いて戴きたいのです。なほ，作曲といふことですが，貴方一人で作曲して楽しんで下さる事について，私は何の意義もありません。ただ，対世間の事になると，山田耕筰氏にでも一応見ていただいた上でないと，一寸御承諾しにくいといふことを御答にします．出版とてもその上の事です。ただ御忠告したいのは，さうした対世間の事について焦慮なさる余裕を今少しく知識と創作の聚積に向け変えて欲しい事です。

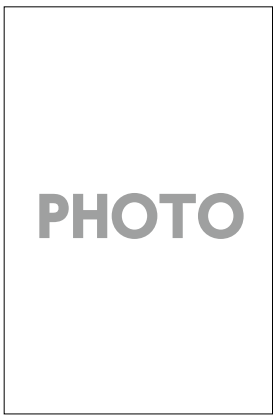
大正十一年八月　相州小田原　白秋

このように，白秋と耕筰は，お互いに，深い理解のもとに，厚く信頼し合って曲作りをしていたと考察する。

白秋が，「落葉松」の詩について書いた詩文があるが，この詩文を耕筰に話したという。耕筰は，この詩文を書き写し，「落葉松」の詩とこの詩文を理解できるまで，毎日，読んでいたようだ。

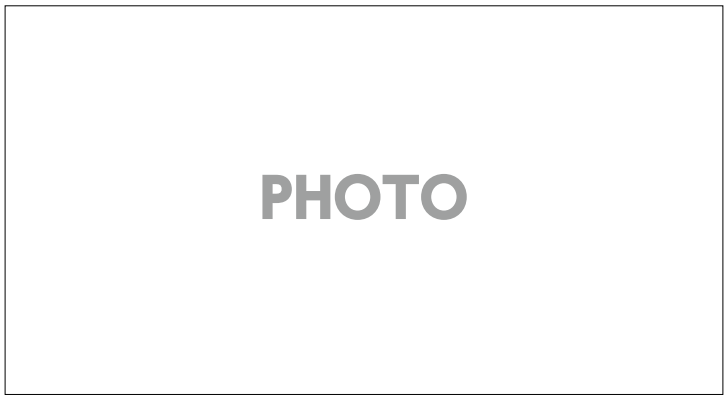
落葉松の幽かなる，その風のこまかにさびしく物あはれなる，ただ心より心へと云ふべし。また知らむ。その風はそのささやきは，また我が心の心のささやきなるを，読者よ，これらは声に出して歌ふべきものにあらず，ただ韻（ひびき）を韻として，句を句とせよ。

北原白秋



耕筰と白秋
竹村忠孝 蔵

4. 耕筰と「ペチカ」北原白秋



詩集「子供の村」に掲載された「ペチカ」
画：深澤省三
資料提供：日本近代文学館

大正 12 年 8 月に山田耕筰は，ハルビン交響楽団のマネージャー原善一郎（原三渓の長男）から，指揮者の依頼を受け，ハルビンへ渡ることになった。月刊芸術誌「詩と音楽」で親交が厚くなった北原白秋は，弟子の大木惇夫を伴い耕筰を見送った。それから半月後の 9 月 1 日に関東大震災が起こり，震源地に近い小田原の街のほとんどの建物は倒壊し，白秋が暮らす天神山（現城山 4 丁目）にある「みみづくの家」も半壊した。余震が続く白秋一家は，「みみづくの家」が倒壊の恐れもあり，附近の竹林で一時暮らした。半壊した「みみづくの家」に戻るが，秋も深まる頃になると一段と寒さが増してくる。そこへ，南満州教育会から，満州に暮らす子供達に童謡をつくってほしいという依頼が白秋と耕筰のもとに届いた。満州という場所に行ったことがない白秋は，関東大震災の後すぐにハルビン（白系ロシア人も暮らしている）から東京に戻っていた耕筰にすぐに連絡をとり相談した。耕筰の提案で題名「ペチカ」（満州やロシアで使われている暖炉）が決まった。白秋は，半壊した「みみづくの家」の中で，外は吹雪いているけれど家の中は妻菊子，1 歳の長男隆太郎がいて温かいと感じながら，「ペチカ」の詩を書いた。

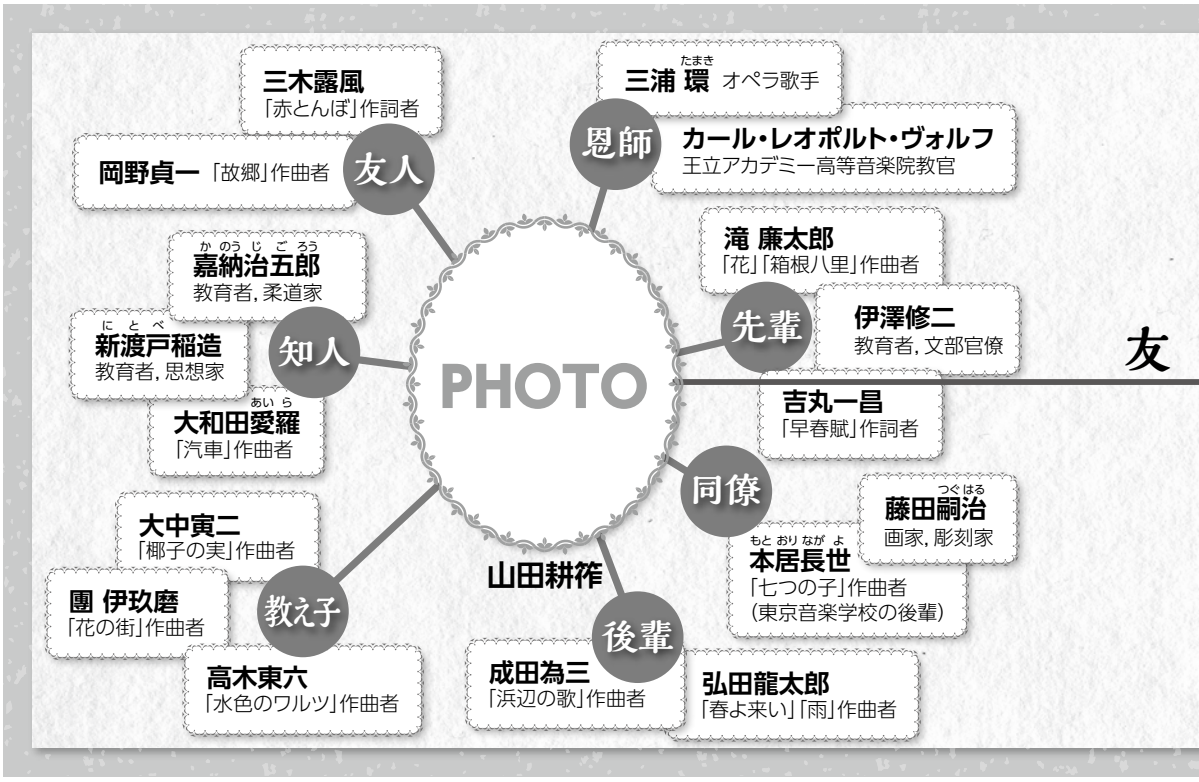
耕筰は後にペチカのロシア式暖炉の正しい発音が「ペィチカ」だと知り，歌唱のときは「ペィチカ」と歌うように書き直している。

耕筰は，この「ペィチカ」の歌い方を，「作曲者の演奏についての注意」として次のように言っている。

発想の規準は伴奏部に従う方が便利であるが各節の詞意によって色々の変化をもたせること。「雪の降る夜は」は話すようにし，「楽しいペィチカ」のペィチカでペィをやや抑えて歌う。次の「ペィチカ」から「お話ししましょ」まではもえろよ，おはなししましょ，と順次弱く消えるように歌う。（中略）「むかしむかしよ」は遠くからきこえて来るような風に。そして最後の「燃えろよ，ペィチカ」では，燃えろよと漸弱して，一寸息を入れ，ペィチカと静かに結ぶ。

山田耕筰

人物



耕筰の肖像写真：日本近代音楽館 蔵

5. 対訳

雪のふる夜はたのしいペチカ。
ペチカ燃えろよ。誰だか来ます。
お客さまでしょ。
うれしいペチカ。

雪のふる夜はたのしいペチカ。
ペチカ燃えろよ。お話しましょ。
火の粉ぱちぱち、
はねろよ、ペチカ。

雪が降っている夜は寒く、家族みんながペチカに集まっての団欒は楽しいです。
寒くならないようにペチカは燃えてよ。誰かが家にやって来ますので。
お客様が来たのでしょうか。
また賑やかになって嬉しいなあ、ペチカのお陰です。

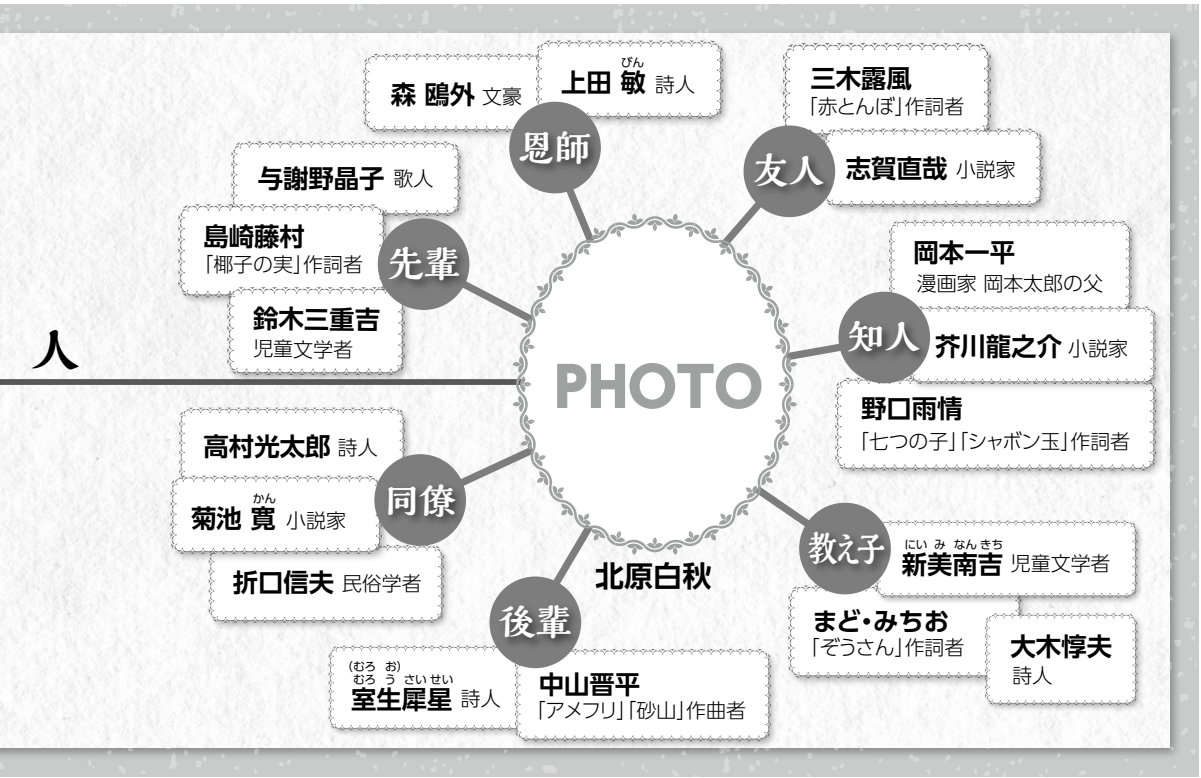
雪が降っている夜は寒く、家族みんながペチカに集まっての団欒は楽しいです。
寒くならないようにペチカは燃えてよ。ペチカを囲んで楽しいお話しをしましょう。
燃料を込めて、もっと温かくすると火の粉が舞ってぱちぱち音をたてています。
もっと燃え上がって火の粉を跳ねあげて部屋を温めてよ、ペチカを囲んでの談笑は楽しいです。

「栗や栗やと呼びます」…満州では、我が国の石焼き芋売りと同じように、栗を売り歩いていた。
「じき春来ます。」…原詩は「もうぢき はるよ」。

白秋を中心とした

相関図

人



白秋の肖像写真：日本近代文学館 蔵（田中善徳 撮影）

ペチカ　北原白秋

雪のふる夜はたのしいペチカ。
ペチカ燃えろよ。お話しましょ。
むかしむかしよ。
燃えろよ、ペチカ。

雪のふる夜はたのしいペチカ。
ペチカ燃えろよ。おもては寒い。
栗や栗やと
呼びます。ペチカ。

雪のふる夜はたのしいペチカ。
ペチカ燃えろよ。じき春来ます。
いまに楊も
萌えましょ。ペチカ。

雪が降っている夜は寒く、家族みんながペチカに集まっての団欒は楽しいです。
寒くならないようにペチカは燃えててよ。ペチカを囲んで楽しいお話をしましょう。
昔の話しや懐かしい話しをしましょうよ。
寒くならないように燃えててよ、ペチカ。

雪が降っている夜は寒く、家族みんながペチカに集まっての団欒は楽しいです。
寒くならないようにペチカは燃えててよ。外は寒いからね。
外から「栗やー栗やー」と、栗も温かいですよと呼んでいる栗屋さんの声が、ペチカまで聞こえてきます。

雪が降っている夜は寒く、家族みんながペチカに集まっての団欒は楽しいです。
寒くならないようにペチカは燃えててよ。もうすぐ春がきますから。
もうすぐ、楊（やなぎ）の芽も出てきますので、それまで燃えていてくださいな。ペチカ。

音楽はメッセージ

With My Heart 稽古場を訪ねて

林 英哲さん(太鼓奏者)と英哲風雲の会

太鼓道場

林英哲さんはご自身の稽古場を道場と呼んでいます。道場は神奈川県の南西部，小高い山の中腹といったところにあります。元々は小学校の分校として建てられ，廃校となった後，地域の公民館として利用されてきた建物で，平成元年に結成された地元の太鼓の会を林さんがご指導されたご縁で，道場としてお借りしているそうです。今号では，林英哲さんと“英哲風雲の会”の皆さん（田代誠，辻祐(たすく)，はせみきた）による稽古の様子と，その時にうかがったお話をレポートします。

林 英哲さん

ラ・フォル・ジュルネ　熱狂の日

林さんと英哲風雲の会の皆さんは，2018 年 2 月にフランスのナントで行われた音楽祭「ラ･フォル･ジュルネ（熱狂の日）」に出演しました。この音楽祭を基調とした「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」は 2005 年からわが国でも開催されていますが，林さんたちは本家フランスから 3 年連続の招請。本日はそのときのプログラム，画家 藤田嗣治(つぐはる)を題材にした「レオナール われに羽賜(はねた)べ」の稽古です。

外国での反応

林さんたちは海外公演も多く行っています。2017 年はフランス，ポーランド，ロシア（モスクワ，サンクトペテルブルグ），ウクライナ，チリで演奏しました。中学器楽「音楽のおくりもの」の教材にもなっている「千の海響」は，以前にアメリカのオハイオ州やキューバのハバナ，アフリカのマラウイやガボンで取り上げて“大受け”だったそうです。

外国での聴衆の反応は，例えばアメリカでは演奏者と聴衆が一緒に熱くなって乗りがよくなっていくのに対し，ドイツやフランスといったヨーロッパでは，林さんご自身「演奏と作品をじっくりと評価しているな」と感じることが多いそうです。それは，アメリカでの拍手は，演奏終了後，間髪入れずに「ワーッ」とくるのに，ドイツなどでは一瞬おいてから「ドッ」とわく，といったところにも表れています。

最初が肝心

林さんは著書「あしたの太鼓打ちへ」* にこう書いています。“海外に限らず，知らない（アウェイの）現場でやる時は，最初のリハでの「ぶちかまし」でその後の空気が一変することが多い。だからリハとはいえ実態はいちばん重要な本番のようなものだ。”これは，音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ」に最初に招請されたときにも感じたことです。リハーサルがフランス人スタッフに大受けで，それからは目の色が変わって動きがよくなり，最初に「ここでは絶対にダメです」と言われていた演出効果もあっさり「OK！」となったそうです。こういった気質は世界共通かもしれません。

▲林さんから曲の構成や表現の仕方についての指示出し

▲本番では田代さんが担当したマリンバ・パートのデモンストレーション

▲メンバー同士で話し合って確認（左から田代さん，はせさん，辻さん）

抱負

林英哲さんは，新しい太鼓のための作品をもっともっと聴いていただきたいと考えています。そのための創作コンクールも行っています。コンクールは林さんがお一人で審査しますが，明確な評価基準に照らし合わせ，応募された方の課題がはっきりとわかる講評をしてくださいます**。

「あしたの太鼓打ち，若手奏者の自立と更なるレパートリーの拡充」これが今後の抱負です。

＊「あしたの太鼓打ちへ」は 1992 年に出版され大変話題になった書籍です。2017 年に増補新装版が羽鳥書店から刊行されました。
林さんの作品は http://www.eitetsu.net/ で紹介しています。

＊＊第三回 林英哲杯 太鼓楽曲創作コンクールは 2018 年 4 月 16 日まで作品募集中です。18 歳以下〈青少年の部〉もあります。本選会は 2018 年 7 月 21 日，お問い合わせはコンクール事務局 一般財団法人 浅野太鼓文化研究所まで（☎ 076-278-5170，E-mail: concours@asano.jp）。

取材協力・・・浅野太鼓文化研究所

MUSIC JAM 通信❶

2018年 教育出版 新 曲集 music jam SENIOR 4

混声合唱曲集「music jam SENIOR 4（ミュージック・ジャム・シニア 4)」が 2018 年 5 月（予定）に発売されます。掲載されている 9 曲全てがこの合唱曲集のために書き下ろされた作品です。今号の「MUSIC JAM 通信 1」では，合唱曲集と併せて発売される範唱 CD のレコーディングの様子をレポートいたします。

「music jam SENIOR 4」掲載曲ラインアップ

飛び立とう君の空へ 作詞 牧原ひつじ　作曲 森谷風太

キミのブルーに，ボクの白 作詞 マイクスギヤマ　作曲 西澤健治

My Dear 作詞 鈴木須美子　作曲 赤尾 暁

風の手紙 作詞 トモ子　作曲 新実徳英

さかさ眼鏡 作詞 新美桂子　作曲／伊左治 直

平和の洗濯 作詞 マイクスギヤマ　作曲 梅本由紀

強さ 作詞 クレハ　作曲 水野弥生

青の彼方 作詞 森 由里子　作曲／小林啓樹

あの丘の向こうから 作詞 牧原ひつじ　作曲 黒江駿介

この中から「飛び立とう君の空へ」「青の彼方」「あの丘の向こうから」の 3 曲が，2018 年 1 月に金田典子指揮，NHK 東京児童合唱団 ユースシンガーズ／ユースメンズクワイア（ピアノ 古髙晋一）によってレコーディングされました。

NHK 東京児童合唱団
ユースシンガーズ／
ユースメンズクワイア

NHK 東京児童合唱団常任指揮者
金田典子

NHK 東京児童合唱団客員ピアニスト・講師
古髙晋一（こたかしんいち）

NHK 東京児童合唱団 ユースシンガーズ／ユースメンズクワイア

1952 年に NHK の教育番組と子ども番組の充実を目的に東京放送児童合唱団（現在の NHK 東京児童合唱団）が設立され，NHK のさまざまな番組への出演，海外の合唱団との交流や国内主要オーケストラとの共演など幅広く活動をしています。そして，1974 年に外部で活躍する児童合唱団卒団生によるグループを合併して，東京放送児童合唱団シニアグループを結成。これが現在のユースシンガーズとユースメンズクワイアの母体になっています。ユースシンガーズには中学 3 年生から大学生までの女子生徒・女子学生，ユースメンズクワイアには中学 3 年生から大学生までの男子生徒・男子学生が在籍しています。

録音前。
まずはウオーミングアップ

録音中。コントロール・ルームから撮影

コントロール・ルームで演奏をチェックする作家陣と録音エンジニア

作曲家からのメッセージ

森谷風太さん　「飛び立とう君の空へ」

皆さんは，ふと空を見上げたことありませんか？　その後で気持ちが落ち着くような，またちょっと勇気が出てくるような…。辛いことや悲しいこと，不安になることは誰にでもあります。そのようなときには空や風から勇気をもらって一歩前に踏み出して欲しい，そんな願いがこの歌には込められています。テーマとなっている空の広大さ，美しさ，さまざまなたたずまいをイメージして，音楽に変化をつけてみましょう。徐々に盛り上がる中間部は，強弱記号に気をつけて丁寧に作り上げてください。

黒江駿介さん　「あの丘の向こうから」

この曲は，皆さんに歌詞や音の響きからイメージを膨らませて歌って欲しいと思い，作曲しました。主人公は「私」でありながら，時に「鐘」でもあります。「鐘は歌う」とはどういうことなのか？　いろいろと物語を想像してみてください。中間部は，曲想の変化がはっきりとわかるようにメリハリをつけ，お互いのパートをよく聴いて，鐘の音のような重なりを意識して歌ってみましょう。その後の「懐かしい鐘の音」は冒頭と同じ歌い方がよいでしょうか？　ひと工夫してみましょう。

「飛び立とう君の空へ」と「あの丘の向こうから」を作詞した牧原ひつじさん

小林啓樹さん　「青の彼方（かなた）」

この曲は，社会への階段を一歩ずつ上り，いま羽ばたかんとする皆さんへ贈る，私からのエールです。この曲を歌うことを通して，身近にいる大切な友だち，お世話になった方々，そして，好きになった人へ，自らの歩みを，成長を，表現してみてください。

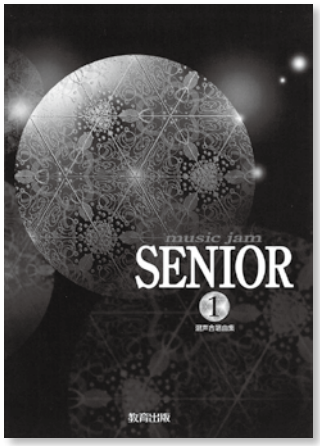
作曲をする際，音楽的に重視したのは，音と音の「間（ま）」です。音楽は，声を出している時だけが，音楽なのではありません。歌わぬ「間」も，大事な音楽の一部なのです。歌い出しの「Sky」の後や，Cのサビ前，Eセクションの「一歩ずつ！」に，皆さんの大切な人への「想（おも）い」を乗せて歌って下さい。

最後に月並みですが，中学生時代は生涯一度きりです。悔いを残さぬよう，各々の「青の彼方」へ，全力で走りきってください。応援しています。

小林啓樹（こばやしけいき）さんと「青の彼方」を作詞した森 由里子さん

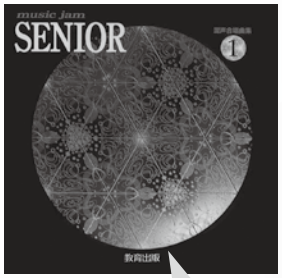
録音も大詰めに近づいています

混声合唱曲集
music jam SENIOR シリーズ 1, 2, 3 発売中!

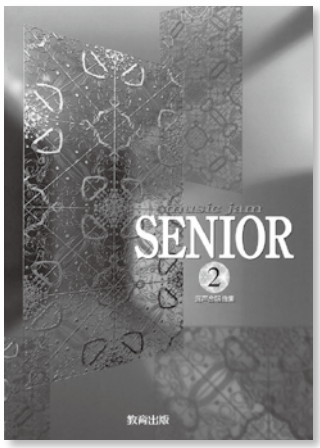


music jam SENIOR 1

「ドアを開けて」 及川眠子 作詞　大澤徹訓 作曲
「僕らの未来」 うらん 作詞　富澤 裕 作曲
「Brand-new season」 うらん 作詞　若松 歓 作曲
「秋の夕陽」 柴田陽平 作詞　松下 耕 作曲
「大きな古時計」 Henry Clay Work 作詞・作曲
「いのちの名前」 覚 和歌子 作詞　久石 譲 作曲
「漂う力を味方にして」 甘城 文 作詞　新実徳英 作曲
「流れる水のように」 山川 啓介 作詞　三善 晃 作曲 他
B5 判 全 15 曲 税込み 1,008 円



範唱とカラピアノを
収録した CD も発売中！
税込み 3,086 円



music jam SENIOR 2

「こころよ 自由に」 新川和江 作詞　鈴木輝昭 作曲
「椎谷岬にて」 ささき かずこ 作詞　三善 晃 作曲
「春に」 谷川俊太郎 作詞　木下牧子 作曲
「一本の宇宙樹があった」 片岡 輝 作詞　新実徳英 作曲
「天地の囁きと共に」 木下富美子 作詞　松村禎三 作曲
「ラ・メール」 尾崎昭代 作詞　三善 晃 作曲
六つの組曲「わらべ唄」 作詞構成・作曲 瑞慶覧尚子
「心の街に」 小海永二 作詞　三善 晃 作曲
B5 判 全 13 曲 税込み 1,008 円

範唱とカラピアノを
収録した CD も発売中！
税込み 3,086 円

music jam SENIOR 3

「Home」 アンジェラ・アキ 作詞・作曲
「You can fly!」 小林真人 作詞・作曲
「Beautiful days」 Takuya Harada 作詞・作曲
「大丈夫」 松本有加・JIMAMA 作詞　JIMAMA 作曲
「四月のいのちの歌」 早坂 類 作詞　西澤健治 作曲
「地球の息吹につつまれて」 鈴木須美子 作詞
赤尾 暁 作曲
「それが涙だと言うのなら」 銀色夏生 作詞
三善 晃 作曲 他
B5 判 全 10 曲 税込み 1,008 円

範唱とカラピアノを
収録した CD も発売中！
税込み 2,571 円

お問い合わせ：☎ **03-3238-6908** FAX **03-3238-6999**
右の QR コードから web サイト曲集・CD のページへアクセスいただけます。

第16回

地球となかよし メッセージ 作品募集（2018年度）

「地球となかよし」という言葉から感じたり，考えたりしたことを，写真（またはイラスト）にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に参加賞がもらえるよ!

応募資格	小学生・中学生（数名のグループ単位での応募も可）
応募期間	2018年7月1日 ～ 9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧下さい。
作品テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや，自然環境や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して，友好の輪を広げた体験，異文化交流，国際理解に関すること ③その他，「地球となかよし」という言葉から感じたり，考えたりしたこと

◎主催／教育出版　◎協賛／日本環境教育学会
◎後援／環境省，日本環境協会，全国小中学校環境教育研究会，毎日新聞社，毎日小学生新聞
＊協賛・後援団体は昨年実績で，継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね
http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/

教育出版 「地球となかよし」事務局 TEL. 03-3238-6862 FAX. 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2－10

前回入選作品

夏至の日に北回帰線が通る場所で何かが起こる？

4月から台湾に住んでいる。地球儀を見ていると台湾を横断する北回帰線を見つけた。不思議に思い調べると，夏至の日に北回帰線が通る場所で何かが起こると聞き，家族で北回帰線標のある嘉義に行き，南中時刻に写真を撮ると，何と「影のない世界」が体験できた！

これは太陽が頭の真上に来る場所が地球上にあり，北回帰線より南，南回帰線より北の地域であり，地球は地軸を傾けたまま太陽の周りを公転するからである。世界は不思議なことばかり。私たちは台湾で影のない世界を体験できました！

中学・高校音楽通信 Spire_M〔2018年 春号〕 2018年3月31日 発行 表紙写真：NHK 東京児童合唱団 ユースシンガーズ／ユースメンズクワイア，林英哲 道場

編 集：教育出版株式会社編集局　発 行：教育出版株式会社　代表者：伊東千尋
印 刷：大日本印刷株式会社　発行所：教育出版株式会社
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10　03-3238-6864（内容について）
URL http://www.kyoiku-shuppan.co.jp　03-3238-6901（配送について）

なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は，科学技術の進展や国際化，情報化，高齢化などによって，今，大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で，人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには，人や自然を大切にしながら，共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは，この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め，社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F TEL：011-231-3445　FAX：011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング3F TEL：0138-51-0886　FAX：0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F TEL：022-227-0391　FAX：022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル5F TEL：052-262-0821　FAX：052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル7F TEL：06-6261-9221　FAX：06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F TEL：082-249-6033　FAX：082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル5F TEL：089-943-7193　FAX：089-943-7134
九州支社	〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡E室 TEL：092-433-5100　FAX：092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F TEL：098-859-1411　FAX：098-859-1411

本資料は，文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき，一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのっとり，配付を許可されているものです。